

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.4.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 6日 月曜

マタイ



28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

28:12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

28:15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。

28:17 そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

もしも兵士たちが居眠りをしていたゆえの失態であったなら、当時は死刑などの罰則がありました。実際には罰は施行されませんでした。居眠りではなく、もちろん弟子たちが戦ったはずもなく、つまり

は人間の理解を越えた方法で、イエス様のからだ
が墓から出たことは確かです。

歴史的な記録も重要ですが、それ以上に重要なことは、命を創造された神が死に負けてしまうのかどうかということです。当然死に打ち勝つはず。地球上に命をもたらした神が、そのひとり子に関してだけ、急に無力になるということはありません。

イエス様は単によみがえったというだけではなく、その権威のゆえに、信じる者たちに使命を与えられました。私たちも、この大弟子化命令を受け取って行きましょう。すなわち、自分自身がイエス様の弟子となり、愛と宣教によって弟子を育てて行きましょう。それがクリスチアンの基本姿勢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

詩篇

<90> 指揮者のために。ムテ・ラベンの調べにのせて。ダビデの賛歌。

- 90:1 主よ代々にわたってあなたは私たちの住まいです。
- 90:2 山々が生まれる前から地と世界をあなたが生み出す前からとこしえからとこしえまであなたは神です。
- 90:3 あなたは人をちりに帰させます。「人の子らよ帰れ」と言われます。
- 90:4 まことにあなたの目には千年も昨日のように過ぎ去り夜回りのひと時ほです。
- 90:5 あなたが押し流すと人は眠りに落ちます。朝には草のように消えています。
- 90:6 朝花を咲かせても移ろい夕べにはしおれて枯れています。
- 90:7 私たちはあなたの御怒りによって消え失せあなたの憤りにおじ感えます。
- 90:8 あなたは私たちの咎を御前に私たちの秘め事を御顔の光の中に置かれます。
- 90:9 私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に消え去り私たちは自分の齢を一息のように終わらせます。
- 90:10 私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどは労苦とわざわいです。瞬く間に時は過ぎ私たちは飛び去ります。
- 90:11 だれが御怒りの力をあなたの激しい怒りの力を知っているでしょう。ふさわしい恐れを持つほどに。
- 90:12 どうか教えてください。自分の日を数えることを。そうして私たちに知恵の心を得させてください。
- 90:13 帰って来てください。【主】よいつま



でなのですか。あなたのしもべたちをあわれんでください。

90:14 朝ごとにあなたの恵みで私たちを満ち足らせてください。私たちのすべての日に喜び歌い楽しむことができるように。

90:15 どうか喜ばせてください。私たちが苦しめられた日々とわざわいにあった年月に応じて。

90:16 みわざをあなたのしもべらにご威光を彼らの子らの上に現してください。

90:17 私たちの神主の慈愛が私たちの上にありますように。私たちのために私たちの手のわざを確かなものにしてください。どうか私たちの手のわざを確かなものにしてください。

人生の短さと主の主権の確かさが歌われています。人は死んで「ちり」に帰るのですが、消えてなくなってしまうわけではありません。最後は主の御手の中にあります。ですから、主のさばきこそが、私たちが「数え」るべき事柄なのです。とは言え、私たちはイエス様の十字架によってさばきに合うことがなく、永遠の命が与えられているのですから、「喜び歌い楽しむようにしてください」という祈りは的を射たものです。主が導いてくださるので、「手のわざを確かなものにして」いただけるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 水曜

詩篇

91:1 いと高き方の隠れ場に住む者その人は全能者の陰に宿る。

91:2 私は【主】に申し上げよう。「私の避け所私の砦私が信頼する私の神」と。

91:3 主こそ狩人の罠から破滅をもたらす疫病からあなたを救い出される。

91:4 主はご自分の羽であなたをおおいあなたはその翼の下に身を避ける。主の真実は大盾また砦。

91:5 あなたは恐れない。夜襲の恐怖も屋に飛び来る矢も。

91:6 暗闇に忍び寄る疫病も真屋に荒らす滅びをも。

91:7 千人があなたの傍らに万人があなたの右に倒れてもそれはあなたには近づかない。

91:8 あなたはただそれを目にし悪者への報いを見るだけである。

91:9 それはわが避け所【主】をいと高き方をあなたが自分の住まいとしたからである。

91:10 わざわいはあなたに降りかからず疫病もあなたの天幕に近づかない。

91:11 主があなたのために御使いたちに命じてあなたのすべての道であなたを守られるからだ。

91:12 彼らはその両手にあなたをのせあなたの足が石に打ち当たらないようにする。

91:13 あなたは獅子とコブラを踏みつけ若獅子と蛇を踏みじる。

91:14 「彼がわたしを愛しているからわたしは彼を助け出す。彼がわたしの名を知っているからわたしは彼を高く上げる。

91:15 彼がわたしを呼び求めればわたしは彼に答える。わたしは苦しみのときに彼とともに



にいて彼を救い彼に誉れを与える。

91:16 わたしは彼をとこしえのいのちで満ち足らせわたしの救いを彼に見せる。」

信仰者がどこにいるのかが歌われています。私たちは「全能者の陰に」かくれて、守られています。全能者の羽でおおわれて守られています。

ここにある「あなたに降りかからず…」というのは、イエス様のことを表わします。そして私たちはイエス様が天の父に愛されているように、また愛されているのです。

愛の主、全能の主のもとにいるのだということをも、いつも自覚しましょう。もしも自分の信仰がだらしのないなど思ってしまうようなことがあっても、いる場所は変わらないのですから、神様の守りがあるのです。感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 木曜

詩篇



<92> 賛歌。安息日のための歌。

92:1 【主】に感謝することは良いことです。いと高き方よあなたの御名をほめ歌うことは。92:2 朝にあなたの恵みを夜ごとにあなたの真実を告げることは。

92:3 十弦の琴に合わせ豎琴の妙なる調べにのせて。

92:4 【主】よあなたはあなたのなさったことで私を喜ばせてくださいました。あなたの御手のわざを私は喜び歌います。

92:5 【主】よあなたのみわざはなんと大きいことでしょうか。あなたの御思いはあまりにも深いのです。

92:6 無思慮な者は知らず愚か者にはこれが分かりません。

92:7 悪い者が青草のように萌え出で不法を行う者がみな花を咲かせてもそれは彼らが永久に滅ぼされるためです。

92:8 【主】よあなたは永遠にいと高き所におられます。

92:9 【主】よまことに今あなたの敵がまことに今あなたの敵が滅びます。不法を行う者はみな散らされます。

92:10 あなたは野牛の角のように私の角を高く上げ私にみずみずしい油を注がれました。

92:11 私の目は私を待ち構えている者どもを眺め耳は私に向かい立つ悪人どものことを聞きます。

92:12 正しい者はなつめ椰子の木のように萌え出でレバノンの杉のように育ちます。

92:13 彼らは【主】の家に植えられ私たちの

神の大庭で花を咲かせます。

92:14 彼らは年老いてもなお実を实らせ青々と生い茂ります。

92:15 こうして告げます。「【主】は正しい方。わが岩。主には偽りがありません。」

安息日のための歌ですから、礼拝のための歌と考えてよいでしょう。礼拝を守るということは、主の「御思い」の「深い」ことに気づかなければ、続きません。それがわからない者は「無思慮な者」「愚か者」と言われていますから、私たちはそうならないようにしましょう。

私たちがどこにいるかも大切です。「正しい者は、なつめ椰子の木のように萌え出で」「レバノンの杉のように育ちます。」とありますが、ここで大切なのは、育つ場所です。「神の大庭」において繁栄させていただきましょう。自分の家で安息を守るということは、不可能です。なぜなら「主の家」で育つことが繁栄の条件だからです。

今後も主の家において育つための決心と、そのための生活を整えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 10日 金曜

詩篇



93:1 【主】こそ王です。威光をまっております。【主】はまっております。力を帯とされます。まことに世界は堅く据えられ揺るぎません。

93:2 あなたの御座はいにしえから堅く立ちあなたはとしえからおられます。

93:3 【主】よ川はとどろかせています。轟音を川はとどろかせています。激しい響きを川はとどろかせています。

93:4 大水のとどろきにまさり力強い海の波にもまさって【主】は力に満ちておられます。いと高き所で。

93:5 あなたの証しはまことに確かです。聖なることがあなたの家にはふさわしいのです。【主】よいつまでも。

「以降」とは英語では majesty と訳され、『王者の権威、威厳』をも表します。ここでは何の変哲もない表現がなされているようですが、しかし私たちがこのようなシンプルな表現にも感動できるなら、それはすばらしいことです。

そして主はただ権威・威厳のある方だけでなく、「聖なる」お方です。主の威厳の前に恐れなく自由でいられるのは、自分が「聖なる」者であって、その「家にふさわし」くなければなりません。私たちは主ご自身のあわれみと愛によって、すなわち十字架で赦されることで、聖なる者としていただきました。また主と共に生きることで、その行いが「聖なる」ものとされるのです。

ここに聖徒の人生、日常生活があります。主の聖を表わす一日でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



94:1 復讐の神【主】よ復讐の神よ光を放ってください。

94:2 地をさばく方よ立ち上がってください。高ぶる者に報復してください。

94:3 【主】よいつまでですか悪しき者がいつまでですか悪しき者が勝ち誇るの。

94:4 彼らは放言し横柄に語り不法を行う者はみな自慢します。

94:5 【主】よ彼らはあなたの民を打ち砕きあなたのゆずりの民を苦しめています。

94:6 彼らはやもめや寄留者を殺しみなしごたちを死なせています。

94:7 彼らは言っています。「【主】は見ることはない。ヤコブの神は気づかない。」

94:8 気づけ。民のうちのまぬけな者どもよ愚かな者どもよいつになったら悟るのか。

94:9 耳を植えつけた方が聞かないだろう。目を造った方が見ないだろう。

94:10 国々を戒める方が責めないだろう。人に知識を教えるその方が。

94:11 【主】は人の思い計ることがいかに空しいかを知っておられる。

94:12 なんと幸いなことでしょう。【主】よあなたに戒められあなたのみおしえを教えられる人は。

94:13 わざわいの日にあなたはその人に平安を与えられます。しかし悪しき者のためには穴が掘られます。

94:14 まことに【主】はご自分の民を見放さずご自分のゆずりの民をお見捨てになりません。

94:15 こうしてさばきは再び義に戻り心の直ぐな人はみなこれに従います。

94:16 だれが私のために悪を行う者に向かって立ち上がるでしょうか。だれが私のために不法を行う者に向かって堅く立つでしょうか。

94:17 もしも【主】が私の助けでなかったなら私のたましいはただちに沈黙のうちにとどまったでしょう。

94:18 「私の足はよろけています」と私が言ったなら【主】よあなたの恵みで私を支えてください。

94:19 私のうちで思い煩いが増すときにあなたの慰めで私のたましいを喜ばせてください。

94:20 破滅をもたらす法廷があなたを仲間に加えるでしょうか。おきてに従いながら邪悪なことを謀る者どもが。

94:21 彼らは正しい者のいのちを求めてともに集まり不義に定めて咎なき者の血を流します。

94:22 しかし【主】は私の砦となり私の神は私の避け所の岩となられました。

94:23 主は彼らの不義をその身に返し彼ら自身の悪によって彼らを滅ぼされます。私たちの神【主】が彼らを滅ぼされます。

闇があって光の美しさがわかるように、「悪しき者」や「横柄」な者によって、神の正しさを知るようになります。これが現実です。別の見方をするなら、この世の不正や悪を見て嘆くばかりでなく、むしろ神様の正義に目を留めたほうが良いのだとも言えます。

詩によって、悪者に「いつになったら悟るのか。」と言ったところで、何も変わらないようにも思えますが、それは信仰者の心の健全さを表わすのです。またこの世で悪に対処するときの心の備えにもなっているでしょう。

悪に染まらないことはもちろんですが、悪に対してただ嘆くだけではなく、主のさばきと聖なることを宣言しましょう。またそのような宣言にふさわしく歩みましょう。

この地上にあっては悪の力の方が強く、悪に味方することも必要なのではないかと思えるときもあるかもしれませんが、しかしそのような考えは、少なくともクリスチャンには有り得ません。しかしクリスチャンと言えども、弱くまた勇気も足りない場合があります。

それでも悪に組まないのは、その悪が主の前では「私たちの神、主が、彼らを滅ぼされ」と知っているからです。クリスチャンが正しくいられるのは、何も勇気があるから強いからとは限りません。ただ知っているのです。悪は続かないことを。それも理想や希望ではなく、現実には神がおられて、最終的には神様についたほうが得策であるということ。

力強く生きたいと思うなら、自分の意志に頼るよりも神様に頼りましょう。それも神様の正しいさばきを考えに入れながら。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 日曜

詩篇



そのとき、8節からあるようなマイナスの出来事も貴重な戒めとなり、役に立てることさえできるようになります。

95:1 さあ【主】に向かって喜び歌おう。私たちの救いの岩に向かって喜び叫ぼう。

95:2 感謝をもって御前に進み賛美をもって主に喜び叫ぼう。

95:3 まことに【主】は大いなる神。すべての神々にまさって大いなる王である。

95:4 地の深みは御手のうちにあり山々の頂も主のものである。

95:5 海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も御手が形造った。

95:6 来たれ。ひれ伏し膝をかがめよう。私たちを造られた方【主】の御前にひざまずこう。

95:7 まことに主は私たちの神。私たちはその牧場の民その御手の羊。今日もし御声を聞くなら

95:8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。メリバのように荒野のマサでの日のように。

95:9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試みわたしを試した。わたしのわざを見ていたのに。

95:10 四十年の間わたしはその世代を退けそして言った。「彼らは心の迷った民だ。彼らはわたしの道を知らない。」

95:11 そのためわたしは怒りをもって誓った。「彼らは決してわたしの安息に入れぬ。」

「喜び歌おう。」「主に喜び叫ぼう。」と呼びかけています。そのような声はなんと人々を励まし、力づけることでしょうか。またどれほど主に喜ばれることでしょうか。そのように人々を励ます者となりましょう。また、自分自身をも励まししましょう。

4節からは、その根拠が明らかにされています。世界を見て「主の御手」を悟り、また自分自身が主の羊であるというアイデンティティを明かにしています。それを常に自覚していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

